

遺跡から「聖地」へ

グローバル化を生きる仏教聖地

まえじまのりこ

前島訓子著

▼A5判上製カバー・三三八頁・本体四、八〇〇円十税

2018年6月刊行



生活者の大半が非仏教徒であるインド・ブッダガヤを舞台に、グローバル化の波と、政治的、経済的、社会的な変動に巻き込まれながら、遺跡及びその周辺が仏教最大の聖地として蘇るプロセスを解明。

【目次】

序章

- 一 問題の所在
- 二 インド・ビハール州・ガヤ県・ブッダガヤの地域的概要
- 三 ブッダガヤをめぐる先行研究とその課題

第一章 先行研究の検討

- 一 聖地論・巡礼論とその課題
- 二 「聖地」の「場所」研究としての位置づけ
- 三 「聖地」をいかに捉えるか？

第二章 忘れられた「仏教聖地」の蘇生

- 一 はじめに
- 二 姿を消す仏教と忘れられた「仏教聖地」
- 三 目覚める「仏教聖地」
- 四 呼び覚まされる「仏教聖地」

第三章 「仏教聖地」における

宗教的空間の再構築

- 一 はじめに
- 二 グローバル化する場所
- 三 「仏教聖地」空間の形成
- 四 「仏教聖地」空間の拡大
- 五 ブッダガヤの仏教化のターニングポイント

第四章 「聖地」再建の舞台

——「仏教聖地」の多元的現実

- 一 はじめに
- 二 「仏教聖地」というブッダガヤの社会的現実
- 三 ローカル社会に浸透する「仏教化」
- 四 「仏教化」と歴史的遺跡周辺で進む「観光地化」
- 五 重層化する「仏教聖地」の場所

第五章 問い直される「仏教聖地」

——「仏教聖地」は誰のものか？

- 一 はじめに
- 二 大塔管理に内在する葛藤
- 三 大塔とその管理をめぐる緊張
- 四 「仏教聖地」の場所の再編と抵抗

終章

- 一 ブッダガヤにおける「仏教聖地」再建とその内実
- 二 初出一覧／参考文献／謝辞

◆著者略歴

一九八〇年、伊勢市生まれ。
名古屋大学大学院環境学研究科博士後期課程単位取得満期退学（社会学専攻）。博士（社会学）（名古屋大学、二〇一五）。国立民族学博物館外来研究員。名古屋大学大学院環境学研究科助教を経て、現在、相山女子学園大学、愛知大学、愛知淑徳大学、国立鈴鹿高等学校ほか、非常勤講師。
主な論文に、「仏教最大の聖地ブッダガヤの世界遺産と地域社会——問われる世界遺産の行方」「文化資源学研究」第二〇号、二〇一八年、「ムスリム住民にとつての仏教聖地——ブッダガヤ復興」、野口淳、安部雅史編著『イスラムと文化財』新泉社、二〇一五年。インド仏教聖地と文化遺産——ボードガヤの変容——、鈴木正崇編『アジアの文化遺産——過去・現在・未来——』慶應義塾大学東アジア研究所、二〇一五年。

注文書	
(書店印)	
ご担当	様冊
前島訓子著	法藏館
遺跡から「聖地」へ	本体四、八〇〇円十税
——グローバル化を生きる仏教聖地	住所
ISBN: 978-4-8318-7385-9 C3039	お電話
お名前	

ご注文はFAX: 075-371-0458

法藏館

〒600-8153 京都市下京区正面通烏丸東入
TEL 075-343-0458 FAX 075-371-0458
http://www.hozokan.co.jp info@hozokan.co.jp

人類学・社会学